

中国とどうつきあうか

前中国大使、前伊藤忠商事会長
丹羽 宇一郎

- * 石橋三原則と日中共同声明
- * 中国をめぐる国際情勢の激変
- * 日中を取り巻く環境の変化
- * 帰国前に王毅さんなど高官と会う
- * 一衣帯水の隣国から引つ越せない
- * 日本の強み「安全・安心」を中国へ
- * 「質の日本」へカギ握る「教育」
- * 春の日中韓首脳会談を活かせ
- * 尖閣棚上げ論をめぐる日中の思惑
- * 日中双方良いところを見つけよう



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日は時の人、丹羽宇一郎さんにおいていただきます。3年前にも、中国大使になるちょっと前でしたが、経営者の目から見たいいお話をさせていただきます。結局、2年5カ月の任期でしたけれども、これは尖閣に始まり尖閣に終わったとも言えるし、民主党政権が始まって、そして終わったという時期でもあった。大使としていい仕事をされましたが、ご苦労様でもあったということですね。もう民主党に義理はないでしょうから（笑）今日は思い切って発言していただきたいと思います。

それからこの『自由思想』という石橋湛山記念財団で出している季刊誌の出来たばかりの号で丹羽さんにインタビューしています。普段は

賛助会員限定で手に入らないものですが、今日は特別に200円でおわけします。日中関係の特集をしていますし、ぜひお読みいただきたい。丹羽さんは高橋亀吉と石橋湛山の熱烈なファンでもあるので、今日はそのへんの話も出てくるかもしれません。それでは丹羽さん、よろしくお願います。（拍手）

丹羽 皆さんこんにちは。あまり期待していただくとは期待外れに終わることが常でございますので、あまり期待をされないでお聞きいただきたいと思います。

退官して3カ月近いと思いますが、まだまだたくさんの方が存命でおられますので、あまり生々しい話はちょっと控えて、個人名をあまり出さないようにしてお話をしたいと思っております。